



浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2024年2月29日

3月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

馴染みの教室から新たなステージへ

学年のゴール3月を迎えます。それぞれの教室を回っていて感じる年度初めからの変化は大きく2つあります。一つは、子どもたちがひと、もの、ことに馴染んできていること。もう一つは、子どもたちが落ち着いて学習に取り組めるようになってきていることです。後者については、2月に実施した授業参観（1年2学級と5年1学級は3月に延期）等の際に、保護者の皆様も感じられたことではないでしょうか。また、学校運営協議会委員の皆様からも、「5月に参観した時より（1月の方が）集中している」との評価をいただいているところです。学級の落ち着きについては、前者の「馴染み」に係る安心感も大きく影響しています。

年度初めには、教室に入れない、入りづらい子も少なくありませんでした。不安の要素はそれぞれですが、仲の良い友達と離れてしまった、先生が変わった（特に新2年生が感じやすい）など、概ね「ひと」に起因するものが多い状況でした。そうした傾向は年度末に向けてぐっと薄まってきましたが、学級のステージは1年間です。子どもたちもそのことを分かっていますので、「次の学年もこのクラスのままでいたい」とは言いませんが、何気ない会話の中に「また〇〇さんと同じクラスになれたらいいな」「また〇〇先生のクラスになりたいな」といった趣旨の言葉が含まれるようになってきました。

先日の懇談会の後、ある保護者の方から、〇〇先生のおかげで子どもが安心して登校できるようになったので、来年度も受け持ってほしいとの切なる願いを賜りました。学校では子どもたちの安全・安心のために児童理解を何より大切にしていますので、教職員（学級担任、専科に関わらず）がこうした評価を受けることは、よい「めぐり逢い」ができた証であり、この仕事に就く立場の者として、教師冥利に尽きると感じます。

次年度の学級編成や教職員配置については、子どもたちが安心して新たなステージでの一歩を踏み出していけるよう、本年度までの子どもたちの状況を勘案しながら、6年間を見据えた子どもたちの資質・能力の育成、並びに学校経営全体の観点を踏まえて行っていくこととなりますが、その前提として私たちが心得ておかなければならないことが2つあります。一つは不安を抱える子どもが安心して過ごせる環境は、誰にとっても安心して過ごせる環境、すなわち、全ての担任（教科担任含）が、誰一人取り残すことなく安心して過ごせる学級づくりや授業づくりに努めなければならないこと。もう一つは、教室における教職員と子どもたちの見る見られるの関係について、見られているのは教職員側でもあるとの感覚を持つことです。子どもたちは、先生と友だちとの関わりをととてもよく見ています。自分たちにとって安心できる先生、自分たちを繋げてくれる先生…。自分が学級を担任していた時に子どもたちから言われて一番嬉しかった言葉は、「ぼくたちを仲よくさせてくれてありがとう」でした。

別れと出逢いが表裏一体で訪れる年度末から年度初めの瞬間を安心かつ充実した時間にしていけるよう努めてまいりますので、引き続き温かなご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

めぐりあい
あなたにめぐりあえて
ほんとうによかった
ひとりでもいい
ころから そういつて
くれる人があれば
相田みつを
文化出版局「本気」